

授業科目名	日本語教育演習 1	単位数	1
担当教員名	なかのじろう 中野二郎	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)	日本語ノンネイティブに日本語を教える立場、日本語教員(或いは教員を目指すもの)に音声指導法を教授する。		
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>(1) 授業のデザイン、練習方法など実際に授業を行うための具体的な手法を学び、教育実習に臨む準備を整える。</p> <p>(2) 音声言語の特徴を知り、技能別(会話、聴解、発音)に教授の際に必要な技術や考え方を共有する。</p> <p>(3) 日本語教育における初級と中上級の違いを概観し、授業を実施する際の留意点を知る。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>日本語教育関連科目(特に「日本語教授法」)で学んだ知識に基づき、実際に授業を実施するための手法を学ぶ。初級レベルはもちろん、中級レベル以上の音声言語に関わる科目(会話、発音、聴解)で学習者のレベル、ニーズ、クラスサイズ等の条件を想定しながら授業デザインのシミュレーションを行う。教師からの示唆もあるが、受講者自身の考察やグループワークを通しての気づきなどを重視して授業を進める。</p> <p>関連科目:「日本語教授法」を履修しスクーリング受講していること。「日本語教育」、「言語学」、「日本語教授法」、「日本語学 1」が関連する。</p> <p>この科目学修後に「日本語教育実習」を履修することを前提とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>(1) 事前学習① 「音声言語」と「文字言語」の違いについて調べ、考えを整理してくる。 事前学習② 指定する用語について理解を深め、他者に説明できるようにしておく。</p> <p>(2) スクーリング 1 日目(第 1 回~第 8 回) スクーリング 2 日目(第 9 回~第 15 回)</p> <p>(3) 科目修得試験(課題形式)</p> <p>※スクーリングの内容については「スクーリングでの学修内容」を参照のこと。</p>			
<p>スクーリングでの学修内容</p> <p>(1 日目)</p> <p>ガイダンス(この授業の目的と心構えを確認)</p> <p>第 1 回 アイスブレイキング I 「音声言語」と「文字言語」の違いについてグループで話して発表。</p> <p>第 2 回 用語の整理: この授業で用いるキーワードについて、理解を深める。</p> <p>第 3 回~第 4 回 「会話を教える」解説&タスク</p> <p>第 5 回~第 6 回 「各種練習の指導」解説&タスク</p> <p>第 7 回~第 8 回 授業デザイン 1 『みんなの日本語初級 1』某課で実践練習</p>			

(2日目)

1日目の実践に対するフィードバック

第9回～10回 「中級レベルの教育」解説&タスク

第11回～12回 「コミュニケーション能力を育てる指導」解説&タスク

第13回～14回 授業デザインⅡ 教材未定

第15回 2日間のふりかえり グループで話した後成果を全体で共有

※両日ともアクティブラーニングの手法を用いて実施

教科書

高見澤孟著『増補改訂版 新・はじめての日本語教育2』アスク出版

スリーエーネットワーク 編著『みんなの日本語 初級1 本冊 第2版』スリーエーネットワーク

参考文献

『発音を教える』国際交流基金、『話すことを教える』国際交流基金

『聞くことを教える』国際交流基金、『まるごと 入門』国際交流基金

学生に対する評価

スクーリング評価(50%)、科目修得試験(50%)を総合して評価する。